

ふじみフレンドシップキャンプ

報 告 書

国立赤城青少年交流の家では、教育事業「ふじみフレンドシップキャンプ」を5月、8月、11月の3回開催しました。交流の家のある富士見地区では、4つの小学校が1つの中学校に進学します。そこに住む小学生（学校数4校）を対象とした、仲間づくりがテーマのキャンプを実施しました。同じ中学校に進学する子どもたちが早い時期から顔見知りになれることをめざし、全3回、合計196名の参加で実施しました。

【第1回目 平成28年5月21日（土）～22（日）】

第1回目のキャンプは、富士見地区子ども会育成会連合会と国立赤城青少年交流の家の共同主催で実施し、参加者は小学校4～6年生68名で交流の家で実施しました。このキャンプは、各単位子ども会との交流とリーダーの育成を目的として実施されました。

1日目は、テント設営、カレーづくり、ネイチャーゲーム、キャンプファイヤーをしました。夜はテントで、静かな森の様子を楽しみながらみんなで寝ました。キャンプリーダーは、富士見VYS（ボランティア）の学生が担当しました。はじめは、同じ小学校同士で行動していましたが、活動を通しお互いにコミュニケーションを取るようになり、上級生が下級生の面倒をよく見るようになりました。



協力してテントの張り方を練習しました



役割を上手に分担しておいしいカレーを作りました



「ネイチャーゲーム」で自然を楽しみました



キャンプファイヤーは盛り上がり、楽しい夜になりました

2日目は、昨日の野外炊事の経験を活かして朝食を作り、短時間で準備と後片付けを行うことができました。メインのプログラムはアドベンチャーラリーです。敷地内のオリエンテーリングコースを回りながら、それぞれの場所で作られる指令やゲームをクリアしながら仲間と協力する楽しさを知ることができました。最後に閉校式を行い1人1人に修了証が渡されました。



「アドベンチャーラリー」では、チームの力が試されました

たくさんの人がサポートしてくれました

【第2回目 平成28年8月6日（土）～7（日）】

第2，3回目のキャンプは、「前橋市富士見地区子どもと自然をつなぐ地域プラットフォーム形成委員会（※）」の主催で実施しました。このキャンプでは、子どもたちが普段生活している「地域」を実感できる体験プログラムを企画しました。

第2回目の活動場所は、赤城山の上にある前橋市赤城少年自然の家で、参加者は4小学校45名でした。8月6日は赤城山夏祭り、地域のお祭りに参加するプログラムを取り入れました。

1日目は、普段あまり自分で乗ることのない路線バスを使って、少年自然の家に向かいました。ウェルカムランチをみんなで楽しみ、カッター体験をしました。大きなオールを2人組でしかも全員で呼吸を合わせて漕ぐのはとても苦労しました。夜は、灯籠を作り願い事を書いて大沼に流しました。湖畔に揺らめく灯籠の光がとても幻想的でした。少年自然の家に戻ってから湖畔で花火を見ました。夜空に輝く花火と湖面に映し出される花火にしばし時間が経つのを忘れました。最後にキャンプファイヤーを行い、たくさんの友達と一緒に楽しみ、一体感を感じることができました。

※「前橋市富士見地区子どもと自然をつなぐ地域プラットフォーム形成委員会」組織
 富士見地区小中学校・PTA 前橋市富士見公民館 前橋市赤城少年自然の家
 国立赤城青少年交流の家 群馬大学教育学部 前橋市教育委員会事務局生涯学習課
 富士見地区子ども会育成会連合会 富士見VYS（ボランティア） 富士見商工会



ウェルカムランチはビュッフェ形式で楽しみました

カッター漕ぎでは、がんばって息を合わせました



灯籠流しが幻想的でした



レクリエーションで盛り上がりました

2日目は、大沼湖畔でフォトラリーを行いました。指示書の写真の場所を探し出し、ここで出されるクイズやゲームにチャレンジし、班のみんなで協力しながら活動しました。昼食は野外炊事を行い、班で協力して焼きそばを作りました。最後の班での活動になりましたが、火のおこし方をみんなで相談したり、自分の担当だけでなく友達の様子を見守ってあげたりとキャンプのまとめとして、人とのつながりを意識した活動となりました。



フォトラリーではみんなでたくさん相談しました



協力して焼きそばを作りました

【第3回目 平成28年11月25日（金）～27（日）】

第3回目のキャンプは、まるごと富士見体験をテーマに、鍋割山登山、ピザ作り、キャンプファイヤー、選択プログラム（時沢大根収穫体験、そば打ち体験、うどん打ち体験）を企画しました。子ども達が「地域の中で生活している」という実感を持つことが重要だと考えました。参加人数は83名となり、とてもたくさん子ども達が参加しました。

1日目は、通学合宿という意味も込めて、多くの子がランドセルを背負って学校からそのまま交流の家に来ました。宿題タイムにはみんなでそれぞれの勉強に励み、上履き、給食着の洗濯なども交流の家で行った子どもも多くいました。初めて別の学校のたくさんの友達と顔を合わせましたが、アイスブレイクを通して不安がなくなっていったようです。



交流の家で「お帰りなさい。」と迎えられました



アイスブレイクで少し緊張もほぐれました

2日目の鍋割山登山は雪の影響もあり、御神水汲みハイキングに変更になりました。班ごとに御神水に向けてスタートし、互いのペースを気遣ったり、別の学校の子と話をしたりという様子も見られました。急な登りではありませんでしたが、長い道のりで、班の友達といろいろな話をしながら、大切に御神水を持ち帰りました。夕食には、ピザ作りをしました。班ごとに手分けしながら作業を進め、粉をこねたり、具をトッピングしたりと班の友達と楽しそうに作っている様子が印象的でした。最後には、キャンプファイヤーも楽しみ、とても盛り上がりました。ここで、また一步、知らなかった友達との距離も縮まったように思います。



みんなで並んで汲みました おいしいピザができました キャンプファイヤーで絆が深まりました

3日目は、富士見の産業に触れようということで、3つの選択プログラムを行いました。富士見の時沢地区には、古くから栽培されている固有種の大根があります。それらの復活栽培プロジェクトを行っている地元の方にご協力いただき、大根抜き・洗いの体験をさせていただきました。味噌汁に入れて味見をしたり、大根をお土産にもらったりして、とてもよい体験ができました。そば・うどん打ちでも地元の方に講師となつていただき、楽しく打つことができました。これまで体験したことがない子が多く、作り方を興味深そうに聞いている様子が印象的でした。最後のふり返りでは、「友達ができた。」「中学に行くのが楽しみになった。」などの感想も聞かれ、たくさんの人数でいろいろな友達と触れあえるよさを実感することができた。



うどん打ち体験をしました 時沢大根をぬきました そば打ち体験をしました

今回のキャンプは、多くの地元の方々にサポートしていただきました。お互いの活動が、地域を元気にし、子ども達にも地域の誇りを実感させてくれる機会となりました。

(文責：田野崎)